社会環境システム研究領域　特別セミナー
～森田恒幸領域長逝去後の一年間の研究成果報告～

「京都議定書の行方」

2004年10月8日（金）

環境経済研究室　亀山　康子

京都議定書における将来枠組み問題

- 京都議定書における排出量に関する義務が2008-2012年までのみ規定されており、2013年以降の目標値に関しては、今後の交渉に委ねられている。
- 現在の京都議定書が抱える課題（米国の離脱や途上国が排出量抑制義務を負っていない等）の克服が求められる。
- 交渉は開始されていないものの、研究者レベルでは将来枠組みのあり方に関して多様な提案が出され始めている。

森田先生と将来枠組み問題

- 問題の重要性をいち早く認識
- 環境省スタッフと研究所スタッフとの間で内輪の勉強会を発足（2002年より）
- 平成15年度よりプロジェクト研究開始を指示

過去1年間の研究の進展

- 国立環境研究所を中心として、若手研究者による世界レベルの研究の開始
- 平成15, 16年と国際シンポジウムを開催し、国内世論への情報提供
- COP9でサイドイベントを開催する等、日本での研究を海外にてアピール

国際シンポジウム（昨年10月）

本研究活動の今後

- 世界トップレベルの研究を日本から発信「世界の先端を行く研究を！（森田語録）」
- 若手研究者の育成　「若い人に世界に出て行ってもらいましょう」
- 学術的高水準を維持しつつ、政策に貢献「研究のプロ」「政策研究の推進」

そして．．．いつも笑顔を！